



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身のkikuさんが綴るふるさとエッセイ

—あいなん音故地新— 「その先にあるもの」

先日、仲間の結婚パーティーがあった。とても素敵なベースを弾く同年代の彼。新婦の彼女も同じくらいの年齢で、ふたりとも実家は北関東にある。親族だけの結婚式やけど、ぜひ演奏してほしいとあたしたちは呼ばれた。

式の途中、新郎のお父様が、「最近の趣味は息子の演奏する姿をYouTubeで見ることに。今までは見たことはなく今回、音楽仲間をよんで演奏するということが興味本位で見てみたらクセになってしまいました…」と挨拶した。そして生演奏の後、初めて見る息子の演奏する姿に感動したと涙を流した。

続けてきたからこそ伝えられた想い、見せられた姿。音楽での生活は決してラクなものではないけど、やり続けた先に必ず素敵な景色が待つとるとあたしは思う。それは音楽界のトップじゃなくてもいいし、華やかな生活じゃなくてもいい。自分が伝えたいと思う人に伝わる、つてこと。自分のやりたい音楽を生涯をかけてやり遂げるってということ。

40歳を間近にして音楽を続けてる自分自身を誇りに思う。今じゃないと歌えん歌もあるけんね。人は死ぬまで勉強して成長する。これからの自分がどんな風にならっていくのが楽しみやし、その姿をいつも支えてくれるみんなに見てほしい。
(テノヒラkiku)

あいなん物産探訪 その⑪

「イサキ」

福浦一本釣組合

かずひと
菅原 数人さん



「上品な味で、これほどうまい魚はないよ」。そう菅原さんが説明するイサキは、愛南町沖で一年を通じて釣ることができ、5月から7月にかけて盛漁期を迎える。この時期のイサキは脂が乗って一番美味しいそうだ。

菅原さんがおすすめする食べ方は、刺身、塩焼き、煮付け、から揚げなど。「どんな食べ方をしても美味しい」と魅力を語る。漁場となるポイントは潮の流れが速いため、魚によく脂が乗る。

イサキ釣りを始めて30年以上が経つが、自

身が所属する一本釣組合は会員数が20名程度に減少し、高齢化も進んでいる。「愛南の魚が一番美味しいと言われるのが励み。たくさん食べてもらいたいとの思いで釣りを続けている」と意欲を見せる。



こちらから愛媛CATVの動画がご覧いただけます



手際よくイサキを釣り上げる菅原さん